

令和7年度

板野南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○話す・聞く、書く、読む力を高める。(目的意識をもち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
○主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

校長

山口 裕司

学力向上推進員

北尾 教子

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取組み状況について報告する場をもつ。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や決まった課題にまじめに取り組める児童が多い。 ○漢字や計算等の基礎的な知識・技能については定着しつつある。 ●語彙力の乏しさから、文章を正確に読み取ることに課題を感じる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・語彙力を増やし、目的に応じて、文章の内容や意図を正確に読み取ることができる。	・漢字・計算の反復練習をし、定期的に確認テストをする。 ・国語辞典やタブレットを効果的に活用し、語彙力を高める。(3年生以上) ・大切な言葉にラインを引かせることで、文章を読み取る手がかりとさせる。	・習った漢字が使えるように、日記で活用した漢字の数を数える習慣をつける。	・漢字・計算ともに反復練習および定期テスト等を行った。(全学年) ・年間通して、家庭学習で計算練習に取り組んだことで、計算力が身についた。(1年) ・日記に活用した漢字を書く習慣をつけると、意欲的に使う児童が増えた。(2年) ・漢字・計算の反復にスキルやSNを使用することで、基礎基本の力が身についてきた。(3年) ・反復練習やテストの結果にポイントをつけることで、意欲的に取り組める児童が増えた。初めて聞く言葉に出会うと、国語辞典をすぐに引く習慣が身についた。(4年) ・自ら「問い」を設定できるような授業設計を心がけた。家庭学習では基礎学力が身につくよう、繰り返し類題を解いた。(5年) ・国語辞典を必要に応じて使うことはできたが、もっと使用頻度を高めたかった。(6年)	当該学年はもちろんのこと、下学年の漢字も振り返る時間を設ける。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを使って、自分の考えを意思表示できる児童が増えてきている。 ●自分の考えを根拠や理由を挙げながら表現する力が不足している。 ●グループ活動になると、友達の意見を聞いて考えをまとめたり修正したり新しい考えを生み出したりすることに課題がある。	・自分の考えを根拠や理由を明らかにして説明することができる。 ・自分の意見を持つと共に、対話を通して、相手と交流することができる。	・スピーチの時間を設け、文の構成や話し方の話形を意識させる。 ・ペアやグループ活動など様々な学習で、ねらいを明確にした対話の場面を設ける。	・発言する時に話形を意識して言うようにする。(根拠や理由を説明するのが苦手な児童には、例を挙げ、自分の考えと近い物を選んで表現させる。)	・話形を示すと、発表等で話形を活用できることが増えてきた。 ・自分の意見をハンドサインで表すことで、発表が苦手な児童も参加できている。 ・理由を自分なりに、図や言葉で表せる児童が増えた。対話の内容が更に深まっていくとよい。(1～4年) ・話し合いの際、教師はファシリテータに徹し、対話的な学習を促した。(5年) ・根拠を明らかにする前に、書かせることが効果的だった。(6年)	「どうしてそう思ったか」というと・・・「それは・・・」など、根拠や理由を明らかにした説明ができるよう習慣づける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○最後まであきらめずに、学習に前向きに取り組める児童が多い。 ●自らの課題を見つけ、課題解決に向けて努力しようとする意識が低い。	・めあてを持って学習に取り組み、自分の学習の状況をしっかりと振り返ることができる。	・授業では、めあてを意識した振り返りの時間を設け、振り返りの視点を提示する。(振り返りカードを活用) ・家庭学習でもめあてや振り返りを意識させ、一つ一つの課題を丁寧に組み立てる。		・全学年、めあてを意識して学習に取り組むことができた。 ・振り返りについては内容に課題が残る学年もあるが、全体としては定着しつつある。 ・振り返りの視点を示したり、これまでの学びを振り返ることができるように学びのポートフォリオを作ったりすることで、自信を持って課題解決に取り組むことができるようになった。(5年) ・宿題(自学)でも、めあてと振り返りを意識して書くことのできる児童は、学力の定着が図れる。(6年)	振り返りを書く時間を授業中に確保する。